

**製品名:** プロキネティシン-1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab16519

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

## 抗原情報

遺伝子名	PROK1
別名	Prokineticin-1 (Endocrine-gland-derived vascular endothelial growth factor;EG-VEGF;Mambakine)
遺伝子 ID	84432.0
SwissProt ID	P58294
免疫原	ヒトプロキネティシン-1 由来の合成ペプチド AA 範囲: 1-50

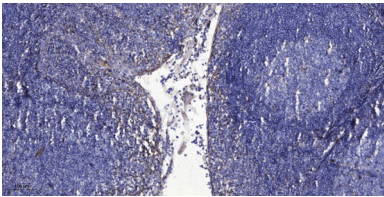
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、内分泌腺由来の毛細血管内皮細胞の増殖、遊走、および窓形成（膜の不連続性の形

成)を誘導する。他の様々な内皮細胞および非内皮細胞型にはほとんど、または全く影響を及ぼさない。その発現はステロイド産生腺(卵巣、精巣、副腎、および胎盤)に限定され、低酸素によって誘導され、血管内皮増殖因子(VEGF)の発現を補完することが多く、これらの分子が協調して機能することを示唆している。[RefSeq提供、2011年9月]、発生段階:成体精巣では、ライディッチ細胞でのみ強く発現する。精巣腫瘍では、ライディッチ細胞腫瘍に特異的に発現する(タンパク質レベル)。胎児精巣では14週から出生まで発現する。機能:消化管(GI)平滑筋を強力に収縮させる。内分泌腺由来の毛細血管内皮細胞の増殖、遊走および形態形成(膜の不連続部の形成)を誘発する。他の様々な内皮細胞および非内皮細胞型にはほとんどまたは全く影響を及ぼさない。腸管神経堤細胞の増殖と分化を誘発するが、遊走は誘発しない。神経芽腫細胞の増殖と遊走を促進することにより、神経芽腫の進行に直接影響を及ぼします。PTGS2発現およびプロスタグランジン合成を正に制御する。胎盤形成に役割を果たす可能性がある。正常および病的な精巣血管新生に役割を果たす可能性がある。類似性:AVIT(プロキネティシン)ファミリーに属します。組織特異性:妊娠第1期の脱落膜の腺上皮、間質、および血管上皮細胞に局在します(タンパク質レベル)。非妊娠時の子宮内膜と比較した場合、妊娠第1期の脱落膜でアップレギュレーションされます。ステロイド産生腺、卵巣、精巣、副腎、胎盤で発現します。

## 研究分野

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、30分)。